



一人暮らしの
憂鬱



saolipooh

やたらにきついオレンジ色で、光沢のあるジュレのような小さな小さな生き物。あるときは、ブタのようなイノシシのような長く突き出た鼻を持つ形態で、テーブルの上を滑っていた。遠くから見れば、単にパスタソースかジュースの拭き残しがテーブルに残っているようにしか見えないものの、私の目は、そいつの存在を見慣れてしまったため、ちらっと目にしただけで、すぐ「やつ」だ、と認識できるようになってしまった。

直接接触することには抵抗があり、クモや蚊のような虫を取り除く感覚で、私はティッシュで「それ」をつまんで捨てようとした。すると、うまくつかめず、ブタのような生き物は、お尻の部分と分かれてしまい、オレンジ色の粒がはじけた。ブタのような生き物は、分かれてしまった自分の一部を取り返そうと、慌てた様子で、転がるオレンジの粒に向かって走っていった。しかし、私は、なんとかその粒のほうはティッシュで押しつぶした。オレンジ色の染みがティッシュに残る。私は、急いでそのティッシュをゴミ袋に突っ込むと、ゴミ袋の口を縛った。けれどもう、狼狽するブタのようなオレンジの生き物を再び触る気になれなく、見ないようにしていた。すると、いつのまにか、「やつ」はいなくなっていた。

目に見えていたときよりもさらに、私は嫌悪感でいっぱいになっていた。あの液体のような弾力のあるような、ゼリーのような質感。ことさらに目立つオレンジ色。様々に変わる形態。それにもかかわらず、必ず「やつ」だとわかってしまう。

実は、私はあいつがなんなのか、そもそも生き物なのかどうかも、本当のところわかってはいない。きっとカビの一種だろうと思う。でも、人に相談したら、あんな気味の悪いカビが生えるなんて、こいつの普段の生活は、どんなにすさんだ汚いものなんだ、と思われかねないと思い、誰にも相談できずにいる。インターネットで検索してみたが、似たようなカビについての記述はあったが、本当のところ、「やつ」の正体に行きついたような書き込みには出会うことができなかった。

今度現れたときには、またもやテーブルの上で、人の、しかも女のような形をしていた。私は、今度こそなんとかしようと思い、私は何も考える前に素早くティッシュで「やつ」を押しつぶそうとした。しかし、「やつ」は3つ4つに分かれ、オレンジの粒となってはじけた。

私は、恐ろしさに目をそむけた。恐る恐る、もう一度テーブルに目を向けると、複数に分かれていたオレンジのジェルは、お互いくっつき合って、またもとの女の形に戻っているところだった。そうして、どこかに消えた。しかし、まだ家のどこかにはいるに違いない。もし、何かの拍子にそれらをつぶしてしまったら、どうなるだろう？気づかぬうちに、食べ物に混在してしまったら・・・

ここ数日、私は家で物を食べることができず、ベッドに入る前も、周りを念入りに点検することが日課となった。それでも、なかなか眠りにつくことができない。

ある日、今度はウサギのような形態の「やつ」を見つけた。私は、ティッシュをつかって、「やつ」を追い込み、うまく誘導して沸騰したお湯が入った鍋の中に「やつ」を落とし入れた。すると、オレンジのジュレが一時にお湯に溶け、鍋の表面にオレンジの膜が広がった。私はお玉で、オレンジの膜を掬うと、新聞紙にくるめた。何重にも新聞紙を丸め、それをゴミ袋に入れて口を縛るだけでなく、そのまま外のゴミ置き場にまで置きにいて、帰ったら一心不乱に手を洗った。

ようやく、あいつから解放されたのだ！

しかし、そう思った瞬間、私は目が覚めた。「やつ」を捕えたのは、夢だったのだ。

今日もまた、玄関の隅で、「やつ」が寝ているような様子を見かけた。花びらの形をしていた。

こんな想いをするくらいなら、引越せばいいのではないか、という言葉が聞こえてきそうである。しかし、それこそが、私がもっとも恐れることなのである。私がいなくなった部屋で、「やつ」が増殖し、私以外の人間が、あの存在を知って恐れおののくとしたら……。

想像をするだけで、私は恐怖のため、ほとんど眠ることができない。